

2 - 3 重点事業評価

事業名

県内図書館等との連携協力の推進

(1) 事業の概要

● 対象

県内の市町村立図書館・公民館図書室・大学図書館・試験研究機関及び県内の各種機関（民間・行政等）

● 意図・目的

本県公共図書館の中核としての役割への期待も大きいことから、県内の市町村立図書館等への協力・支援を行ない、各種の研修により県全体の図書館サービスの充実を図るとともに、各機関との連携協力により、県民に対する幅広い読書推進活動に取り組む。

● 令和元年度の具体的取組（概要）

①県内の市町村立図書館・公民館図書室職員を対象に満足度の高い集合研修、訪問研修を実施することで、県全体の図書館サービスの向上を目指す。

②県内全市町村を訪問することで市町村図書館の現状を把握し、適切な助言や情報提供を行うことによって、市町村図書館支援の充実を図る。

③小規模自治体向けのセット図書長期一括貸出の充実を図ることにより、当該自治体の図書館サービスを支援し、県民の読書環境の充実を図る。

(2) 指標① 目標：毎年度90%以上

項目（指標）	達成目標（数値）			実績
	H30	R1	R2	
集合研修・訪問研修の参加者満足度（アンケート回答「参考になった」「やや参考になった」の割合）	H30	R1	R2	R1
	90%以上	90%以上	90%以上	100% (111%)

指標② 達成目標：3か年で全市町村を訪問

項目（指標）	達成目標（数値）			実績
	H30	R1	R2	
訪問相談実施市町村数	H30	R1	R2	R1
	10市町村	10市町村	10市町村 (全市町村訪問)	8市町村 (80%)

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	C	指標①は前年度に続いて目標数値を達成したが、指標②は新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため、目標を達成できなかった。
------	---	---

AA 目標が十分に達成された。

A 目標が達成された。

B 目標がある程度達成された。 C 目標の達成が十分ではない。

※評価 AA：105%以上 A：100～104% B：95～99% C：94%以下

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	県内図書館職員の資質向上につながる集合研修・訪問研修、訪問相談は市町村等のニーズも高く、県立図書館として重要な事業であると考えている。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	集合研修・訪問研修、訪問相談のアンケート結果を見ると、高い満足度と共に今後への期待も高く、一定の成果が上がっているものと考えている。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	集合研修については、市町村図書館のニーズに合うような企画立案に取り組んだ。 訪問研修・訪問相談は、各館の希望に沿った内容となるよう事前調整を十分に行うとともに、より多くの市町村を訪問し、県内図書館等の現状を把握するよう努めた。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など
<p>指標①については、次年度もアンケート結果を踏まえつつ、質の高い研修を実施していきたい。</p> <p>指標②については、目標最終年度には、今年度中止となったものを含めた全市町村を訪問することで、県域全体の図書館支援の充実につなげていきたい。</p>

(5) 図書館協議会意見

<p>集合研修・訪問研修に関する「次年度の展開」について、「やや参考になった」を含めた「満足度100%」の結果であり、問題点・改善点はあるものと考えているが、図書館の見解が分からない。さらに、参加者はどのような点が参考になったと考えているのか、実施した研修内容が実際にどのように活かされているかなどを、実績として明らかにしていくことが必要であると考えている。昨年度も指摘したが、訪問研修の内容が長らく「資料の修理や保存の基礎」「レファレンス研修」の2種類であることについて、種類を増やすことを再度要望する。</p> <p>少なくとも「資料の修理や保存の基礎」があれば、「応用」も実施されてよいはずである。県立図書館自身が全国的な図書館の動向等を踏まえて、市町村図書館等の現場に必要なと考える新たな研修内容を組み立てて実施していくことが必要である。もしも研修内容の固定化の理由が、「市町村図書館等からの要望にに応じている」ということであるならば、そうした態勢について改善を求めたい。</p> <p>訪問相談については、次年度にすべての市町村の訪問を終えることから、3年間の成果をまとめ、市町村図書館等との連携強化に向けた検討に活かしていく必要があると考えている。</p>
--